

# 地図でたどる

舞台のクライマックスは、浜松から島田、そして大井川へ…。



写真/青木信二

# 文楽「生写朝顔話」。

泣けて、クスリと笑えて、また泣ける。すれ違いドラマの決定版！

すれ違いはドラマを生む。そして、これはすれ違いドラマの決定版だ。出会いのトキメキから別れ、再会、また別れ…と運命の糸は交わりそうではなかろう。そんなしれっとくもハラハラドキドキさせてくれる「生写朝顔話」とは、一体どんな物語なのか。

お家騒動も面白けれど、大衆が好きなのは、やっぱり悲恋モノ。

そもそもは司馬芝翫の長話『蕪(あざがわ)』を歌舞伎化し、それをさらに浄瑠璃に直したもので、もとはお家騒動の話だった。しかし、興行的にはワキ筋にあった男女の悲恋のほうが面白そう。というわけで、現在の悲恋のいきさつを簡単に紹介したいが何しろいろんなことが起こる。しかもややこしい。そこで二人の足跡を中心に地図の上でまとめてみた。

ハラハラ展開。それにしてもなぜ、こんなにもすれ違い？

一つは、養子に入ったり、芸名を名乗るなど、途中、主役二人の名前が変わる。それで互に気づかぬまま、ということが起こる。もう一つは、すれ違いモノお決まりの絶妙なタイミングでのアクシデント。国元から急命が下つたり、よからぬ者を伴っていたり。風が吹いたり、川が増水したり。ヒロインは、盲目にまでなってしまう。

それでも変わらない二人の思い。カキは、朝顔の厨。

それでも変わらない二人の思い。カキは、朝顔の厨。考えてみれば、世の中に電話もメールもない時代、愛しい人がどこにいるのかわからない状態でニアミス連続自体、奇跡に近い。二人をつなぐのは、ズバリ！彼が朝顔の歌をしたためた厨。物語の要所所で登場し、まさに運命の風を送るのである。

出合っはすれ違っは、W主演のこの二人！

【宮城曾次郎(みやぎそうじろう)後に駒沢次郎左衛門(こまざわじろうさへもん)】大内家の武士。後に伯父の養子となり、改名。これもまた、すれ違いの理由の一つ。

【深雪(あさゆき)後に朝顔(あさがわ)】家老 秋月弓之助の娘。流浪の果てに盲目となり、朝顔を名乗る。

【浅香(あさか)】深雪の乳母。深雪を守り、深雪を負って亡くなる。

【或屋権右衛門(あるゑけんえもん)】浜松で笑い薬を手に入れたる島田宿の主人。家は浅香の父。

【若代参事(わしろまじ)】家老の者ながら、大内家養子取りを企む一人。



- 1 大内宿の段** 運興に取る主君を諷めるため、駒沢(こまざわ)阿曾(あそ)次郎(じろう)跡継ぎの室城(むろしろ)阿曾(あそ)次郎(じろう)を鎌倉に使う。
- 2 多々羅浜の段** 浜の松原で助当の身を嘆く、了庵(りょうあん)阿曾(あそ)次郎(じろう)物陰(ものかげ)から老女(らうにょ)の策謀(さくぼう)を鎌倉に使う。
- 3 宇治川童持りの段** 童持(どうぢ)に出かけた阿曾(あそ)次郎(じろう)童持(どうぢ)が風で秋月(あきづき)弓之助(ゆきのすけ)の娘(むすめ)、深雪(あさゆき)の舟(ふね)に乗り、二人は出会う。阿曾(あそ)次郎(じろう)は朝顔(あさがわ)を描(え)かれた厨(かまど)に歌(うた)を読む。やがて悲命(かなしみ)にて舟(ふね)を去る。
- 4 真葛が原茶店の段** 深雪(あさゆき)に構巻(かまき)する医者(いしや)の森(もり)の祐仙(ゆうせん)、二人の縁(ゆかり)を知り、阿曾(あそ)次郎(じろう)に化けようを画策(かくさく)。
- 5 岡崎隠れ家の段** 偽家(いつせ)がバレた祐仙(ゆうせん)は深雪(あさゆき)の父(ちち)に追い払(は)われる。再会(さいかい)が叶(かな)わず、深雪(あさゆき)は落胆(らくたん)、国元(くにもと)からのお召(めい)しで、阿曾(あそ)次郎(じろう)は朝顔(あさがわ)の姿(すがた)を尋(たず)ねるも阿曾(あそ)次郎(じろう)が深雪(あさゆき)を門前(かどまへ)に引(ひ)き去る。
- 6 明石船別れの段(兵庫)** 明石(あかし)の港(みなと)、天候(てんこう)不良(ふりょう)により停泊(ていぱく)中の舟(ふね)で深雪(あさゆき)は琴(こ)を置き、朝顔(あさがわ)の歌(うた)を聞(き)く。それを聴(き)き驚(おどろ)かされたのは、同じ(おななじ)風待(かぜまち)の阿曾(あそ)次郎(じろう)。再会(さいかい)を誓(ちか)ひ合う二人。感傷(かんそう)に負け、阿曾(あそ)次郎(じろう)は深雪(あさゆき)を運(は)連れて行く決心(けつこころ)をする。深雪(あさゆき)が書(か)き置き(おき)を残(のこ)すために、意図(いどう)で舟(ふね)に隠(かく)れた深雪(あさゆき)は朝顔(あさがわ)の厨(かまど)を破(やぶ)る舟(ふね)に投げ込む。
- 7 弓之助屋請の段** 深雪(あさゆき)の父(ちち)が鎌倉(かまくら)を持ち帰(かへ)る。相手(かた)は駒沢(こまざわ)次郎(じろう)左衛門(ざゑもん)(以下、駒沢(こまざわ)阿曾(あそ)次郎(じろう)の改名(なまえかへ)とは知らず、梅里(うめり)と阿曾(あそ)次郎(じろう)は家(いへ)を出(で)る。
- 8 小瀬川の段** 悪党(あくどう)から逃(に)げられた深雪(あさゆき)は身を投げようとするも、老女(らうにょ)(笑(わら)は姿(すがた)の一味(いまい)に助けられる。
- 9 摩耶が嶽の段** 摩耶(まゐ)の娘(むすめ)の助(すけ)けを得(え)て、深雪(あさゆき)は盗賊(たうさく)が隠(かく)れ住(す)む摩耶(まゐ)が嶽(たけ)から逃(に)げ出す。
- 10 大磯揚屋の段** 駒沢(こまざわ)の運(は)りめに我(われ)に帰(かへ)る。一方(ひと)、鎌倉(かまくら)の大内(おおい)公(こう)は、駒沢(こまざわ)の運(は)りめに我(われ)に帰(かへ)る。
- 11 葉売りの段** 島田(しまだ)の宿屋(しゆくわ)の主人(しゆじん)深雪(あさゆき)の折(をり)り、怪し(あやま)しげな笑い薬(わらいぐすり)を買い(か)い求める。その後(のち)、深雪(あさゆき)をさら(さら)い損(こ)ねた人(ひと)買(か)い戻(かへ)す声(こゑ)をかける。
- 12 浜松小屋の段** 浜松(はままつ)のうらに盲目(もうもく)となる深雪(あさゆき)。その深雪(あさゆき)を探(たず)ね、巡礼(ごんり)の礼(れい)目(め)を深雪(あさゆき)が通(とほ)りかか(か)り、源(みなもと)の再会(さいかい)となる。そこに現(ま)わられた人(ひと)買(か)い戻(かへ)す声(こゑ)を、自ら(みづか)ら深雪(あさゆき)を誘(よび)つ。
- 13 笑い薬の段(島田)** 笑(わら)い薬(ぐすり)を飲(の)みたい祐仙(ゆうせん)は、虫屋(むしや)に泊(と)まる駒沢(こまざわ)に引(ひ)かれ、薬(ぐすり)を混ぜ(まぜ)た薄茶(うすちや)を飲(の)ませよう(と)、駒沢(こまざわ)と同行(どうぎょう)の岩代(いわよ)に持(も)ちかか(か)る。その一部(いちぶ)始末(はつまつ)を見た主人(しゆじん)は、代(しろ)わり(に)先頃(まづか)に求(もと)めかける。それを聞(き)いて怒(おこ)ったのは祐仙(ゆうせん)たち、しづめ(と)つれ薬(ぐすり)の解薬(げいやく)を持(も)つ祐仙(ゆうせん)は、怒(おこ)りと散(ち)ら(せ)てみ(み)せるも、効(き)いたのは笑い薬(わらいぐすり)だ…。
- 14 宿屋の段(島田)** 宿屋(しゆくわ)で駒沢(こまざわ)は衝立(つむぎだて)の書面(しよめん)に朝顔(あさがわ)の歌(うた)を見(み)つけ、主人(しゆじん)に尋(たず)ね、部屋(べつや)に呼(よ)んでもら(もら)う。朝顔(あさがわ)と名乗(なま)る盲目(もうもく)の女(にょ)は、確(たしか)かに深雪(あさゆき)は、それ(それ)で、琴(こ)を弾(ひ)き歌(うた)うのはあ(あ)の歌(うた)…。だが、駒沢(こまざわ)は岩代(いわよ)の前(まへ)では声(こゑ)をかけることもできない。岩代(いわよ)が部屋(べつや)を出(で)た後(のち)、すぐさまおとうとするも、朝顔(あさがわ)は出(で)かけた後(のち)、出立(でだて)の時(とき)刻(とき)が迫(せま)る駒沢(こまざわ)は、お念(ねん)念(ねん)と、馬(うま)を主人(しゆじん)に託(たく)す。もしやと疑(うたが)った朝顔(あさがわ)は、眞(まこと)に恋人(こゝろに)のお名前(な)があることを知(し)り、後(のち)を追(お)う。
- 15 大井川の段(大井川)** 雨(あめ)中(なかに)、深雪(あさゆき)が大井川(おおいがわ)に急(いそ)ぐも、大水(おおい)で川(がわ)を渡(わた)らな(な)い。深雪(あさゆき)は川(がわ)を渡(わた)った後(のち)、深雪(あさゆき)はここを三途(さんず)の川(がわ)と定(さだ)めて死(し)のつと(つと)とするが、秋月(あきづき)家の閨人(まへやく)阿曾(あそ)次郎(じろう)の主人(しゆじん)らに引(ひ)かれ、自害(じがい)し、その血(ち)で駒沢(こまざわ)が託(たく)した薬(ぐすり)をその血(ち)で飲(の)ませる。すると、深雪(あさゆき)の目(め)は再び(また)開(ひ)く。
- 16 返り咲音書の段** 駒沢(こまざわ)に会うため、深雪(あさゆき)は道(みち)を急(いそ)ぐ。

地図の上から、二人の運命を追ってみよう！